

A full-page photograph of four people (two men and two women) standing in a row outdoors on a paved path. They are all smiling and wearing professional business suits. From left to right: a man in a dark blue suit, a woman in a light grey suit, a woman in a beige suit, and a man in a grey suit. The background is filled with green trees and a building. A yellow banner is overlaid on the bottom left.

# EY Difference Recruiting Brochure

EY新日本有限責任監査法人



Building a better  
working world



# 変化の先へ、 あなたと共に



新型コロナウイルスの感染拡大を経験した今、私たちを取り巻く環境は大きく変わりました。常識や価値観すらも揺るがす未曾有の経験をする中で、資本市場が経済活動のインフラであることは不変でした。多くの企業が決算報告に奔走し、私たち監査法人もさまざまな努力を重ねて監査意見を表明しました。それは偏に資本市場の信頼性を維持することが企業や人々の生活を支える絶対条件であるためです。「監査」にはそれだけの使命があります。そして不確実性に満ちた経済環境であればこそ、社会はより一層監査法人への期待を高めます。アフターコロナで訪れる新しい時代を見据えて、私たちEY新日本有限責任監査法人（以下、EY新日本）は、過去からの延長線上にない新たな発想で監査法人を変革していきます。

## 「イノベティブな監査法人」

社会の期待に応え、社会の変革を支えていくためには、監査法人が時代を先取りし、進化していかなくてはなりません。新しい価値観が生まれる時代においても、EY新日本は、変革を厭わないプロフェッショナルが集う、イノベティブな組織であり続けたいと考えています。そのために、多様な人材が、テクノロジーの活用で時間と場所の概念を根本から変えるような働き方ができる環境を創っていきます。

皆さんにとって会計士になることがゴールではありません。今、会計士のキャリアや可能性は無限に広がっています。皆さんが新しいことにチャレンジできる組織風土、またそれを後押しする研修制度（EY Tech MBA やEY Badgesなど）や環境が、EY新日本にはあります。自分らしいキャリアや働き方の実現を通して成長していく皆さんを、私たちは全力でサポートします。

## 「アシュアランス（監査）4.0」

EY新日本は、来たるデジタル時代の監査を「アシュアランス（監査）4.0」と位置づけ、クライアントのデータに常時アクセス可能な環境下で、ロボティクスやAIを活用して異常な取引や不正の兆候を継続してモニタリングしていく継続的監査（Continuous Auditing）の実現に向けた研究開発を進めています。2020年7月からは、アシュアランスイノベーション本部を設置し、デジタル分野でも最先端を走る監査法人として、エンジニアやデータサイエンティストなどの専門人材を採用し、デジタルツールの開発を加速していきます。この「アシュアランス（監査）4.0」の中心となって未来の監査を創り上げていくのは、皆さんのようなデジタルネイティブ世代の会計士です。皆さんと共にデジタル時代の新しい監査を先導していきたいと考えています。

## 「グローバルな経済社会の円滑な発展に貢献する プロフェッショナルとして」

経済市場のボーダレス化が進展していく中で、これまで以上に、さまざまな国籍やバックグラウンドのEYのプロフェッショナルと共に働く機会が増えています。EYのメンバーファームには、税理士や弁護士、不正対策やデジタルの専門家など豊富な知見や経験を持つ多様なプロフェッショナルが集っています。また、ダイバーシティ&インクルーシブネス（D&I）の取り組みにも注力し、お互いが理解し、刺激しあいながら成長できる環境があります。EY新日本は、皆さんが自分らしくいることがプロフェッショナルとしての可能性を最大限に発揮できると信じています。

EY 新日本有限責任監査法人  
理事長 片倉 正美



Whenever you join,  
however long you stay,  
the exceptional EY experience  
lasts a lifetime.

## 変化に対応し、一緒に未来を創っていききたい

### 成長とキャリア形成をサポート、そして自ら創り上げる

EY新日本は、グローバルに強固な基盤を持つEYの日本におけるメンバーファームです。EYでは、世界で約28万人以上のプロフェッショナル※が誇りを持って活き活きと活躍していますが、それはEYが人材の育成を非常に重要な競争要因と考えて力を注いでいるからです。現在、EY新日本では、グローバル化とデジタル化という二つの大きな変化に対応しています。その中で常に高い品質の価値を提供していくため、次の二点を備えた人材を求めています。一点目は、適切なタイミングで正しい判断ができ、ゆるぎないプロフェッショナルとしてのコアを持つよう努力し続けられる人材です。もう一点は、変化を先取りし、自ら考えて積極的に行動し周囲を巻き込むことができる人材です。皆さんがこのような人材になることを目指し、個々人の成長とキャリア形成をサポートいたします。私たちは、「業務経験」、「研修」、「タイムリーなフィードバック」という三つの要素を充実させ相互に関連づけることが重要と考えています。そして、皆さんのキャリアは皆さん自身のものですから、組織としてのサポートをフル活用し、自らが目指すキャリアを形成して頂きたいと思います。

### プロフェッショナルとしての働く喜びを

公認会計士というプロフェッショナルは、経済社会にとっても大きな役割を担い貢献していますが、決して表舞台で派手な役回りを演じるものではありません。むしろ、クライアントや社会のためにコツコツと地道に貢献する裏方の役割と言えるかもしれません。ですが、公認会計士というプロフェッショナルが日々こなす一つひとつの仕事は変化に富み、常に自身の成長を促すエキサイティングな環境のもとで働いています。これをやりがいに感じ、仲間と一緒に課題を乗り越えたとき、クライアントや社会から感謝や称賛が寄せられてプロフェッショナルとしてのかけがえのない自信になります。これからの激動の変化の中で、一緒に新しい時代を創って、より良い社会を構築していきましょう。

大内田 敬

経営専務理事 人材開発本部長

※2019年6月30日現在



## メンバー紹介

## The EY Way

2016年入社  
第2事業部  
スタッフ

中澤 若奈



## CAREER

2016年

入社。  
学生非常勤として4月から3カ月間、週3日の勤務を続ける。研修は常勤の新入社員と一緒に受講。

2017年

常勤。  
3月に大学卒業後、常勤に。メディア、エンターテインメント、製造業、IT等のクライアントを担当。

2019年

会社法監査で初めて主査を務める。

## 「あなたでなければ」と信頼される人材を目指して

学生非常勤として  
キャリアをスタート

私が公認会計士という職業を知ったのは、大学進学を前にしたときでした。志望大学の学科を調べたら将来の進路として公認会計士という職業が紹介されていて、スキルを磨くことで生涯活躍できる仕事であるということを知り、ぜひ挑戦したいと思ったのです。そして、EY新日本を志望したのは、大規模クライアントが、それぞれ属する業種（セクター）ごとに一つの

事業部に集約されていることが理由でした。というのも、私はメディアやエンターテインメント業界に関心があり、そうした業界の企業をクライアントとして担当し、業界に精通した会計士になることを希望していました。同じ事業部に同じセクターに属するクライアントが集約されているEY新日本ならばクライアントが属する業界についてより深い知識を得ることができると考えました。在学中に公認会計士試験に合格したため大学3年生の2月に入社して学生非常勤としてスタート。約3カ月にわたって週

## Nakazawa Wakana

2016年入社  
第2事業部  
スタッフ

2016年に学生非常勤として入社し、第2事業部に配属。翌2017年に大学を卒業し、4月から常勤となる。双子の姉と二人暮らしを楽しんでおり、休日には一緒に料理をつくって過ごす。趣味は映画鑑賞。

3日間勤務を続けました。この間、監査ツールの使い方や社会人としての基本的な立ち居振る舞いなどを学ぶことができたため、翌年、常勤となるに際しても大変心強く感じました。公認会計士としてのキャリアをスタートするにあたって、非常に有意義な時間を過ごせたと感じています。

コミュニケーションスキルの  
重要性を知る

大学卒業後に常勤となり、現在は第2事業部でメディア系・エンタメ系のクライアントを担当しています。具体的には映画会社やスマホアプリの運営会社などです。クライアントごとに数人のチームが組成されており、私は日程表に従い、日によってそれぞれのチームにアサインされるという働き方をしています。各監査チームの主査の指示のもと、監査業務全般に携わっていますが、クライアントの経理担当者に必要書類の準備を依頼したり、経営者ディスカッションに出席したりと、予想以上にコミュニケーションスキルを求められるというのが実感です。クライアントの内部資料をもとに経営陣と関わりながら業務を進めていくという私たちの仕事には、ほかの職業では味わえないやりがいや緊張感が伴います。先輩主査はクライアントの経営陣からも厚く信頼されており、その姿を見ることで、私も一日も早くクライアントの期待に応えられる人材になりたいと感じています。クライアントが掲げるビジョンの



達成に向けて、共に同じ道を歩いていき、“何があっても任せて安心”と思っていただけるような存在になることが私の目標です。

頑張る仲間を互いに支え合う  
カルチャー

EY新日本への入社を決めたもう一つの理由が、女性が長く活躍できる環境・制度が整っていることでした。子育てをしながら時短勤務で働いている先輩が多く、退社時刻が迫るとご本人よりも先に周囲のメンバーが「そろそ

ろ時間ですよ」と声をかけて促してくれる、そんな温かい風土がEY新日本にはあります。育児休暇を取得している男性メンバーも珍しくありません。また、女性メンバーのネットワーク「WindS」という組織もあり、出産や育児などについて情報交換しながら女性同士が助け合う仕組みも用意されています。私自身、これから先、結婚や出産というライフイベントを経験しながらも仕事と家庭を両立させ、公認会計士として生涯働き続けたいと考えています。先輩たちの姿に、EY新日本ならばそうした志もきっとかなえられると確信しています。



## 第2事業部

**食**品、衣料品などの消費財、テレビ局や出版社などのメディア系、ゲームなどのエンターテインメント系企業を中心に、メーカー、IT系のクライアントに向けて、監査およびアドバイザリーサービスを提供しています。業界特有の知識・知見を深めることで、より質の高いサービスの実現に努めています。



## メンバー紹介

## The EY Way

2016年入社  
金融事業部  
シニア

溝口 功一郎



## CAREER

2016年

入社。第1事業部に配属され、主に製造業を営む会社の会計監査に従事。その後、金融事業部WAMセクターに異動。損保系アセットマネジメント会社のファンド監査及び信託銀行のSOC業務に従事。

2017年

メガバンク、信託銀行、運用会社のSOC業務及び、ファンド監査に従事。運用会社等の会計監査も担当。

2018年

主にファンド監査を担当。関与する運用会社のSOC業務において主査を経験。また、IPO業務や、東証1部上場の信販会社の会計監査を経験。さらに有志で教育支援に参加し、中学生への会計教育を行う。

2019年

シニア昇格。引き続きファンド監査、SOC業務、上場企業の会計監査を担当。社会貢献プログラム「EY Ripples」の一環として中高生教育支援プロジェクトに参画。

## 金融の高度な専門性を磨きつつ、多様な経験も積み成長する

資産運用業界の  
健全な成長を支えたい

私が所属する金融事業部のWAM（ウェルス&アセットマネジメント）セクターは、主に資産運用業界に特化した専門家集団です。数学が得意だった私は学生時代に公認会計士の道を志すことを決め、卒業後に本格的に勉強を始めましたが、その際に考えたのが、自分ならではの強みを持った公認会計士となるために、特定の分野に精通したいということでした。金融が面白そうだ

とは思っていたのですが、銀行の監査にとどまるのではなくて、投資信託やファンドなどにも携わりたいと思ったのです。そんなとき、EY新日本の説明会でWAMセクターのことを知り、ここでぜひ専門性を磨きたいと考え、入社を決めました。投資家から資金を預かって運用するのが、資産運用業界です。貯蓄から投資へという社会トレンドの中、資産運用業界の監査を通じて投資家が安心して資金を預けられる環境を整えることに、公認会計士としての大きな責任と社会的使命を感じています。

## Mizoguchi Koichiro

2016年入社  
金融事業部  
シニア

入社1年目から金融事業部WAMセクターに配属され、資産運用会社等の監査に従事する。その一方で受託会社の内部統制関連業務やIPO支援業務、さらには中高生教育支援プロジェクトと、幅広い業務に携わる。趣味は海外旅行。一人で出かけるのが好きで、想定外の事態に遭遇して乗り越えていくことを楽しんでいる。

枠にとらわれず、  
さまざまな業務に挑戦する

投資信託（ファンド）を一つの箱とすると、その中には株式や債券、デリバティブなど多様な金融商品が詰まっていて、運用のプロが運用を担当しています。私たちが行う監査はその箱全体を対象とすることになり、多くの科目を一人で見るという醍醐味があります。WAMセクターならではの面白みでしょう。一方、FinTech企業のIPO支援に携わったり、年金運用受託会社の内部統制（SOC）に係る保証報告書のチェックを行ったりと、幅広い業務も担当。さらには「公認会計士である以上、一般の上場会社の監査も経験したい」と上司に相談したところ、東証1部上場の信販会社の監査も担当できました。このように枠組みにとらわれることなくボーダーレスに業務に挑戦できるのが、EY新日本らしさです。それが可能なのも、業界No.1として多くのトップ企業をクライアントに擁しているからにほかなりません。もちろんそうした環境を自分の成長のために活かすには、自ら案件に飛び込んでいくぐらいの主体性、積極性が必要なのは言うまでもありません。

次世代人材への  
金融リテラシー教育も

幅広い活動ということで特にご紹介したいのが、



企業の社会貢献プログラムとして行っている「EY Ripples」の取り組みです。その一環として中高生教育支援プロジェクトを展開。私は都内の中学校に赴き、公認会計士としての目線で、中学生の購買活動をアドバイスしました。日本では若い世代への金融教育が欠けていると感じており、中学生たちに金融リテラシーを身につけてほしいとの思いがそこにありました。数年後、私が教えた中学生の中からEY新日本に入社する人材が出てき

てくれたら、嬉しく思います。私自身は、これからもWAMセクターの業務を通じて、資産運用業界に精通したプロとしての道を歩んでいきたいと考えています。



## 金融事業部

**銀行**、証券、保険、アセットマネジメントの各金融分野において最大規模の人員・クライアントを擁し、長く業界のNo.1として総合的な金融サービスを提供。EYの強みであるグローバル業務やアドバイザー業務に加え、FinTech企業のIPO業務など、多様な業務経験や高い専門性を得られる業務領域が広がっており、業界の最先端を走り続ける“EY金融”会計士のキャリアの可能性はますます高まっています。



## メンバー紹介

## The EY Way

2015年入社  
第4事業部（パブリックセクター）  
シニア

松岡 美苗

## CAREER

2015年

戦略マーケティング事業部パブリックグループ(旧)に配属。インフラ系の特殊会社や政府系金融機関、公益法人等の監査に従事。

2016年

事業部再編により第4事業部へ異動。パブリック分野のほか、一般事業会社の監査にも携わる。

2017年

IPO、上場企業、金融、パブリックの4つの分野においてコアメンバーとして携わる。

2018年

シニアに昇格。一般事業会社の監査に従事する傍ら、公益財団法人、独立行政法人の主査業務を経験する。

## 明日の社会に貢献したいという使命感のもとで

## パブリックセクターならではのやりがいを感じる毎日

私は入社時からパブリックセクターに配属されました。私がパブリック分野に興味を持つようになった原点は、地方公務員の両親の会話を聞くうちに、自然と地元行政に対する意識が高まっていき、将来は出身地の九州で地方創生に携われたら、と考えたことがきっかけです。1年目から政府系金融機関を中心にパブリック分野のクライアントの監査に携わり、現在

は文化庁所轄の独立行政法人の監査業務等を担当しています。収蔵品の実査では通常立ち入りが禁止されている地下倉庫に入って収蔵品を確かめたり、特別展の収益を監査することで各企画の人気を知ったりと、文化的施設ならではの面白さが味わえます。一般的にパブリック分野では会計基準が複雑で未整備な部分がある等、課題が多いのが現状です。そうした状況を踏まえつつ監査業務を進めていくことで、営利目的では運営できない文化や教育、医療等を守っていくことに貢献しているとい

## Matsuoka Minae

2015年入社  
第4事業部（パブリックセクター）  
シニア

将来は地方創生に携わりたいとの志で、パブリック分野に強いEY新日本に入社。一般事業会社の監査も経験しながら基礎を身につけ、現在は一部上場企業の主査を担当するほか、パブリックセクターにおいて公益法人や独立行政法人、自治体の包括外部監査を担当している。趣味は住んでいる町の散策。休日に飲食店等を開拓するのが毎週の楽しみ。

う実感が得られます。こうした使命感は、パブリックセクターならではのやりがいです。

## 大手企業の監査を通じて公認会計士としての基礎を磨く

入社時からパブリック分野に強い公認会計士になりたいという想いは持っていましたが、公認会計士としての基礎を築くには上場企業を中心に一般事業会社の監査経験を積んでおいたほうが良いとの考えから、二十代の間は分野を問わずにさまざまな経験を積みたいと思っていました。そんな要望を聞き入れていただき、金融事業部など他事業部との連携のもと、IPOも含め、多様な業界の監査に携わりました。業種によって手続きや論点が異なるなど大変ではありましたが、この経験は貴重なものでした。特にEY新日本の場合、業界を牽引するような大企業の監査に携われるので、業界標準の会計処理を学べたことがよかったと思います。現在では、アミューズメント施設を運営する一部上場企業の主査と、文化庁所轄の独立行政法人の主査、自治体の包括外部監査等を担当しており、地方創生に関連した業務を行いたいという将来のビジョンに対して、より近い下地となる経験を積んでいるのではないかと感じています。

## 先輩の姿をお手本に、仕事と家庭の両立を

私は入社5年目で結婚しました。6年目となった今では、同期の中にも産休・育休を取得する人が増えてきて、私も自分自身の今後の働き方について考えるようになりました。仕事と家庭の両立は今や男女共に共通するテーマです。EY新日本には子育てを終えて活躍を続ける女性が多

く、さらには育休を取得したり時短制度を利用して子育てに参加する男性も珍しくありません。またそれは、新しいものを早く取り入れ、コンプライアンスを厳守するというEY新日本の社風によっても支えられていると感じます。どのような働き方を選択したとしても、いつでも相談できる相手が身近に多いという環境はとても心強く、私も自分らしい働き方を切り拓いていきたいと考えています。

## 第4事業部（パブリックセクター）

中央省庁、特殊法人・特殊会社、独立行政法人、国立大学法人、地方公共団体、第三セクター、地方独立行政法人、学校法人、公益法人、社会福祉法人、医療法人、労働組合、健康保険組合、NPO法人、国際機関など多くの公的機関・公共サービス提供機関に、監査およびアドバイザリーサービスを提供しています。その実績は30年以上にも及び、日本のパブリックセクターにおける先駆者として圧倒的な信頼を得ています。



メンバー紹介

# The EY Way

2010年入社  
企業成長サポートセンター  
マネージャー

安藤 正伸



## CAREER

| 2010年                                  | 2013年                      | 2014年           | 2015年                  | 2016年                                  | 2019年                                    |
|----------------------------------------|----------------------------|-----------------|------------------------|----------------------------------------|------------------------------------------|
| 入社。監査第4部（当時）配属。グローバルに事業を展開する製造業の監査に従事。 | 卸売業を営む会社の監査で、初めての主査業務を務める。 | シニア昇格。第1事業部に異動。 | 不動産事業を営む上場会社の主査業務を務める。 | 第5事業部に異動。不動産業、自動車ディーラー等の上場会社の主査業務を務める。 | 企業成長サポートセンターへ異動。IPOを目指す企業の監査業務・非監査業務に従事。 |

## IPOのスペシャリストを目指してキャリアを拓く

### 創業者のパートナーとして成長に貢献する

私がEY新日本を選んでよかったと思う理由の一つに、経験できる業務の幅が広いという点があります。大手企業の監査に携わりながらパブリックの分野でも経験を積むことができ、同時にIPOに従事することもできるし、アドバイザー領域への選択肢もあります。実際、私も入社以来上場企業の監査に携わりながら、入社3年目からIPO業務にも関わってきました。サ

ポート的な立場ではありましたが、その経験を重ねるうちに次第に本格的にIPOに携わりたいと思うようになり、自ら望んで企業成長サポートセンターへ異動。成長への熱い志を持つ創業者に伴走する形で、会計処理や内部統制に関するサポートを行っています。現在はテクノロジー企業の上場支援業務を担当しており、創業者から頼りにされながら一緒にゴールを目指していくことに大きな喜びを感じています。

### Ando Masanobu

2010年入社  
企業成長サポートセンター  
マネージャー

入社後、製造業、不動産業、自動車ディーラー等の監査に携わりながら、IPO業務も経験する。企業成長サポートセンターに異動後はIPO業務に専念し、上場を目指すテクノロジー企業の監査業務・非監査業務に従事する。趣味はクルマ。休日には家族でドライブを楽しむ。

### 大手企業の監査経験はIPO支援に不可欠

法人としてIPO業務を重視しているのがEY新日本です。多くのIPO案件を手がけていますが、決して企業成長サポートセンターのみがIPO業務に携わっているわけではなく、すべての事業部でIPO業務に携わる機会があることがEY新日本の特徴です。そのため私のように監査業務で公認会計士としての経験を積みながら、IPO業務も並行して経験することが可能です。実はこれがIPOの専門家を目指す上で非常に重要なことなのです。というのも急成長中のベンチャー企業は内部統制や組織体制が未整備であることが多く、私たちがそのサポートをするためには企業の本来あるべき姿を知っていなくてはなりません。また、時には前のめりになりがちなプロジェクトの中でブレーキを踏む役を引き受けなくてはなりませんが、それもあるべき姿を知っているからできることです。そうした「あるべき論」を学ぶ上で上場企業の監査を経験することは非常に重要で、入社直後から大手企業の監査に携われるEY新日本ならではの強みといえるでしょう。「IPOならEY新日本」というのは、クライアントだけでなく、私たちにとってもいえることなのです。



### “審査する側”への出向も視野に入れて

私の担当するテクノロジー企業が上場を果たしたら、新しい技術や製品が社会を変え、人々の暮らしはさらに便利で快適になっていくでしょう。そのような可能性を秘めた“原石”としてのベンチャー企業を見つけ出して磨きをかけていくプロ

セスには、社会的使命を感じます。今後私は多様なIPO業務の経験を得るため、外部へ出向することも考えています。監査法人以外の角度からIPO業務に携り、そこで得たものをEY新日本に持ち帰って知見を共有すると共に、私自身、IPO支援業務のスペシャリストとしてのキャリアを積んでいきたいと思います。



### 企業成長サポートセンター

EY新日本に蓄積されたIPO支援のナレッジを活用し、IPO関連イベントやセミナー等を開催して、多くの成長企業に情報提供を行います。上場希望の企業に対してはナレッジやノウハウ、人脈等の総合力を駆使してIPO支援を行うとともに、上場後の監査も担当します。



## メンバー紹介

## The EY Way

2010年入社  
第4事業部  
マネージャー  
(2020年7月より第1事業部へ異動)

岡本 いずみ



## CAREER

| 2010年                                                    | 2013年                                | 2014年                                                    | 2015年                                                                                                                            | 2017年                                                            | 2020年                                                                                            |
|----------------------------------------------------------|--------------------------------------|----------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 入社、大阪事務所配属。<br>2カ月間の学生非常勤を<br>経て入社。海外リファ<br>ーラル業務を中心に担当。 | シニア昇格。<br>引き続き、海外リファ<br>ーラル業務を中心に担当。 | ホ テ ル 業 界 向 け セ ミ<br>ナー、英文会計セミナー<br>等、外部のセミナーで講<br>師を担当。 | EYロサンゼルス駐在。<br>GEP(Global Exchange<br>Program)を利用して、EY<br>ロサンゼルス事務所へ。<br>シリコンバレーのテクノロ<br>ジー企業、ロサンゼルス<br>の自動車関連企業のシニア<br>主査を経験する。 | ロサンゼルス駐在を終え<br>て日本へ帰任と同時に東<br>京事務所に異動。<br>第4事業部に異動、マネー<br>ジャー昇格。 | アシュアランスイノー<br>ベーション本部イノーベ<br>ーション戦略部を兼務、主<br>にGradLabを担当し、デ<br>ジタルマインドとスキル<br>を兼ね備える若手人材を<br>育成。 |

## 熱い気持ちがあればグローバルへの道を拓くことができる

## 世界で戦うために、自ら道を拓く

数字は世界の共通語。公認会計士なら財務や会計の知識を武器に世界で戦えと考えたことが、この業界を志望した動機です。EY新日本を選んだのは、当時、国際部という部署があったからでした。入社後は外資系企業の日本法人の監査(リファーマル業務)を中心に担当。米国の会計基準に関してご担当者に質問をいただくことが多く、専門性を身につけることで“私も社会の中で必要とされるんだ”という実感を得るように

なりました。一方で“これで満足してちゃダメだ”という想いも強く、U.S.CPA(米国公認会計士)取得を目指すことを決心。その先に芽生えてきたのが、実際に米国で働きたいという想いでした。そこで私は、EY新日本のGEP<sup>®</sup>を利用して海外に飛び出そうと考え、試験にチャレンジ。入社6年目にEYロサンゼルスに駐在するチャンスを手に入れました。U.S.CPAを取得したのは、その駐在中のことでした。

※GEP=Global Exchange Program  
(海外研修制度)

## Okamoto Izumi

2010年入社  
第4事業部  
マネージャー  
(2020年7月より第1事業部へ異動)

入社後、大阪事務所に配属。EYロサンゼルスでの勤務を経た後帰国し、東京事務所に異動。現在に至る。趣味は海外旅行。最近ではメキシコのきれいな海でイルカと一緒に泳ぐという体験をした。長い休暇を取得しやすい点もEY新日本の魅力の一つ。

米国で感じた、  
これからの自分のあるべき姿

GEPの2年間は目からウロコの連続でした。例えば、一緒に働いた仲間たちの姿勢です。とにかく仕事に対しては厳しく、とことん原理原則を追い求める仕事ぶりでした。公認会計士としての誇りと、プロとしての在り方を、教えられました。また、2年間という限られた期間で日本からやってきた私に対して、同僚、上司、先輩と周囲のすべての人がフェアな態度で私に接してくれ、どんな質問や要求にも誠実に応えてくれました。彼らと過ごしたことで、周囲の人々に自分はどんな影響を与えているのか、成長につながるような貢献ができていたかといったことを自省するようになりました。一方で、最初から積極的にコミットし、チームの中心として活躍する若い現地スタッフを見て、自分も初めからアクセル全開でチームに参画すれば、もっと成長できたのではという反省も。この悔いを忘れることなく、次に海外で働く機会が来たら、臆することなくフルスロットルで突っ走りたいと考えています。

熱い想いこそ  
前へ進んでいくためのエネルギー

日本へ帰任すると同時に東京事務所に異動し、



マネージャーにも昇格しました。現在は日本のグローバル企業の監査、外資系テクノロジー企業、ライフサイエンス企業のエンゲージメント・マネージャーを担当しています。業務ではインド、フィリピンの拠点も活用するシェアード・サービス・センターをパイロット的に使っており、日常的に異文化コミュニケーションの難しさと面白さを感じています。日本人同士なら言わなくても分

かってもらえることも、海外では通じないのが当たり前。そんなコミュニケーションギャップを乗り越えていくことも、グローバルな仕事の面白さです。一方で、チームを動かし、仕事を前に進めていくパワーの源は、人の情熱です。それは世界共通で、どんな仕事でも100%の力を注ぐことで新しい道は拓けると信じています。



## 第4事業部

テクノロジー系企業、エネルギー関連、ライフサイエンス系企業を中心に監査業務を担当しているのが第4事業部です。部内ではセクター(業界)別にチームが編成され、業界特有の専門的な知見、最新の情報に基づいたサービスを提供しています。同時に業界ごとの研究会を通じて知見と経験を共有することで、業界に特有の会計・内部統制上の課題に対応しています。



メンバー紹介

# The EY Way

2001年入社  
第1事業部（海外デスク兼務）  
パートナー  
**川岸 貴浩**



## CAREER

| 2001年                                                    | 2008年                                                  | 2011年                                                             | 2014年                                                                    | 2018年                                                                    |
|----------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|
| 入社。<br>大手タイヤメーカー、公認会計士予備校、IPO準備会社、ボランティア団体など、さまざまな監査を経験。 | マネージャー昇格。<br>グローバルに展開する大手電機メーカーの監査チームに異動。海外勤務を志すようになる。 | EYシンガポール駐在。<br>日系企業の会計監査、税務、M&Aアドバイザリー業務を担当。APACエリアでシニアマネージャーに昇格。 | 帰任。<br>グローバル企業の監査チームの統括主査としてIFRS導入支援に携わる。税務等のほかのサービスラインとの連携によるサービス提供を実現。 | パートナー昇格。<br>グローバル企業やIPO準備会社の監査を担当。さまざまな研修や駐在員派遣等を通じたEY新日本のグローバル人材の育成も担当。 |

## 卓越したサービスの“ 起点 ”として

### 監査法人の会計士という殻を自ら打ち破る

会計知識と英語力があれば世界を舞台にどこでも活躍できる。EYならではのそんな選択肢の多さを実感したのは、入社10年目にEYシンガポールに駐在したときでした。日系企業の現地法人との窓口として、私は監査のリエゾン業務から国際税務、M&Aアドバイス、会社設立から清算に至るまでの幅広いサービス提供に関与しました。現地のプロフェッショナルとクライアン

トがコンフリクトを起こさないように気を配りつつ、期待を超えるサービスの実現に取り組む中で、サービス品質そのものの重要性を改めて認識。特に、監査に留まらない、EYの多様なリソースを活用した複合的なサービスを提供することが重要であると気づきました。EYのグローバルネットワークの中で活躍するプロフェッショナルたちは、私たちにとっての貴重なインフラです。通常の監査で接しているクライアントからの相談を通じて論点を見つけ出し、自分が“起点”となり、レバレッジを効かせてそのインフラを活用

### Kawagishi Takahiro

2001年入社  
第1事業部（海外デスク兼務）  
パートナー

大手メーカー等の監査業務、IFRS導入支援業務などを経てEYシンガポールに3年間駐在。帰任後、複数のグローバル企業の監査チームを統括。パートナー昇格後はEY新日本のグローバル人材の育成にも注力。趣味は旅行で、年2回夫婦で海外旅行を楽しむ。

すれば、卓越した品質のクライアントサービスを実現できます。これはEY新日本ならではの圧倒的なアドバンテージです。“監査法人に所属する日本の公認会計士”という狭い殻を打ち破る意識を持つことで、業務はダイナミックに広がり、自分自身の可能性も大きく広がっていくことを学びました。

### 女性が輝きを放てるカルチャーづくり

EY新日本の組織としての先進性、柔軟性を強く実感したのもシンガポール駐在がきっかけでした。実は私の妻もEY新日本所属の公認会計士ですが、私が赴任するタイミングで一度EY新日本を退職しました。EY新日本のサポートも受けつつ、現地採用のインタビューを経て当時のEY新日本の役職を維持したまま、EYシンガポールに入社しました。500人以上の部署で唯一の現地採用の日本人として完全に現地に溶け込み、IFRSベースの監査スキルやグローバル対応力を磨くとともに、日系企業向けの営業をすることで人脈を広げました。そして帰国して、退職前と同じEY新日本の部署に、今度はEYシンガポールの同じ役職で戻りました。女性比率が80%を超えるEYシンガポールの状況、および妻の働く姿を見ているので、会計事務所は男女の別なく能力ある人材が輝きを放てる仕事であると自信を持って言い切れます。そして、妻の将来に期待して海外で自己研鑽をする機会を与えてくれた、EY新日本ならではの「人を大事にする」カルチャーに、とても感謝しています。



### 世界中の素晴らしい人々と出会える喜び

“仕事は人生で最大の遊び場”です。私はEY新日本で働くことで世界中の素晴らしい人々と出会うことができました。公私の別はあまり意識しておらず、プライベートの旅行の際は現地のEYのオフィスに立ち寄り、一緒に食事を楽しむことにしています。反対にEYシンガポール時代の同僚も来日するたびに声を掛けてくれて、食事をしながらキャッチアップしています。その会話の中から仕事のヒントが浮かぶこともしばしばです。

人生を楽しむ上で、私にとってEY新日本は最高の環境なのです。そして、この素晴らしい環境と一緒に楽しんでもくれる仲間のためにも、若い人材の育成に取り組み、同僚や部下にとっての「精神的支柱」で在り続けたいと考えています。EY新日本のサービスを支える唯一の財産は人材であり、その育成と環境づくりこそ、これからの私の重要なミッションです。



### 第1事業部

化学、テクノロジー、商社業界を中心に、グローバルクライアントからIPO準備会社まで、幅広くカバーしているのが第1事業部です。デジタルインベーションをはじめとする環境変化に対応する企業も多く、業界知見や多様なスキルを持った人材によって監査およびアドバイザリーサービスを提供しています。部内はセクター（業種）別にチームが編成されています。



## メンバー紹介

# The EY Way

2012年入社  
EYストラテジー・アンド・  
トランザクション（出向）  
トランザクション ディリジェンス  
コンサルタント

潤賀 信一郎



## CAREER

| 2012年                                  | 2015年                                | 2016年                                                                           | 2019年                                                            |
|----------------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| 入社。監査第3部に配属され、スタッフとして多様な業種の企業の監査を担当する。 | 公認会計士登録と同時に、小売業のクライアントの主査を担当するようになる。 | 自動車、建設、不動産業に特化した第5事業部へと異動。ホテル、建設業の主査を担当する。その後、シニアに昇格し、自動車関連のメーカー、不動産投資信託の主査を担当。 | モビリティ制度を利用し、自らの希望でEYストラテジー・アンド・トランザクションへ出向。M&Aのデューデリジェンス業務を担当する。 |

## メンバー紹介

# The EY Way

2012年入社  
EYサンフランシスコ（出向）  
シニア  
西嶋 優子

## CAREER

| 2012年                                                | 2016年                                              | 2017年                                                     | 2019年                                                               |
|------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|
| 入社。学生非常勤として大学院へ通いながら週4日の勤務を行う。テクノロジーセクターを中心とした業界を担当。 | 大学院博士課程修了後、常勤へ。第1事業部でグローバルに事業展開する大手テクノロジー企業の主査を担当。 | シニア昇格。テクノロジーセクターに加え、海外に親会社を持つ医療機器メーカーの初年度監査の主査として海外業務を経験。 | テクノロジーセクターを対象としたプログラムを利用し、2年間の予定でEYサンフランシスコに出向。急成長中のモバイル決済企業の監査を担当。 |

## 出向という手段によって、活躍の場の選択肢を広げる

### 磨かれたスキルを活かして新しい職種に

公認会計士の仕事の魅力の一つに、入社数年という若手でも、クライアントの役員クラスの方々と向き合って話ができることがあげられます。私もシニアに昇格した4年目には主査として上場企業の責任ある方々と話をするようになり、コミュニケーションスキルはかなり磨かれました。監査人という立場ならではの成長の機会だと思います。同時に、この経験を活かして新しい分野にチャレンジしたいという意欲も湧いてきました。そこで当社のモビリティ制度を利用し、以前より興味のあったM&Aのアドバイザリー業務に挑戦しようと考え、EYのトランザクション・アドバイザリー・サービス（現ストラテジー・アンド・トランザクション）への2年間の出向を決めたのです。違う分野での成長を求めたとき、転職という道を選ぶなくても想いをかなえることができるのは、メンバーファームとして異なる分野のプロフェッショナルサービスを抱えるEY Japanならではの強みでしょう。



### 異なる環境が新たな知見を育てる

現在私はM&Aにおける投資先企業の価値やリスクを調査するデューデリジェンス業務に従事。1カ月でアウトプットを求められることも珍しくないほどのスピード感の中で仕事をしています。対象となる企業の業種もさまざまで、税の専門家や弁護士など他分野のプロと連携する機会が多いのも特徴です。一方で、チームワークを大切に、上下の垣根なく自由に意見を言い合えるというEY Japanならではのカルチャーには変わりありません。新しい経験によって新しい知見、スキルも磨かれました。出向によって自分の可能性はさらに大きく広がったと感じています。

### Uruga Shinichiro

2012年入社  
EYストラテジー・アンド・  
トランザクション（出向）  
トランザクション ディリジェンス  
コンサルタント

第5事業部所属としてホテルや建設業などの主査を担当した後、入社6年目にEYトランザクション・アドバイザリー・サービスに出向。M&Aの案件に多数携わる。趣味は海外旅行。モロッコで見た砂漠の光景が忘れられない。

## EYストラテジー・アンド・トランザクション

EY Japanには4つのサービスラインがあり、企業の成長をドライブするためのトランザクションサービスを担っているのがEYストラテジー・アンド・トランザクションです。日本企業の海外進出および欧米企業から日本企業に対する投資など、さまざまな案件をサポートしています。

## 海外勤務で培う新しい視点

### 変化する時代と監査のあり方

シリコンバレーの人々と仕事をしていると、そのスピード感到に驚かされます。テクノロジー企業のクライアントは当然のこととしても、一緒に働くEYサンフランシスコ事務所の仲間たちも、時代がものすごいスピードで変化していることを受け止め、キャッチアップするために自ら変わることをまったくためらいません。日々の業務の進め方を変えることに抵抗はなく、変わっていくのが当たり前と考えているのです。一方で、監査の本質は国や時代が変わっても大きくは変わりません。その本質を身につける上で、EY新日本で学生非



常勤の頃から大手企業の監査を担当させてもらったことには感謝しています。

### 海外勤務への挑戦

入社以来、グローバル企業の監査を経験して感じたことが、私自身の成長のためには海外での業務経験が必要ということでした。上司に相談したところ、推薦してくれたのがグローバルのEYで展開されていた海外留学プログラム。このように上司が背中を押してくれたおかげで私は海外勤務の想いをかなえることができました。声をあげていれば誰かが手を差し伸べてくれるのは、EY新日本の素晴らしい風土だと思います。出向中に吸収した「何事も前向きに向き合う文化」を、帰国後、EY新日本の仲間たちとシェアしたいと思います。そして変化に対しても前向きな姿を、私自身が示していくことができればと思います。

### Nishijima Yuko

2012年入社  
EYサンフランシスコ（出向）  
シニア

学生非常勤として入社後、大学院に通いながらテクノロジー企業の監査を担当。柔軟な働き方を受け入れてくれたEY新日本に感謝している。2019年よりEYサンフランシスコ事務所出向。実は幼少時の海外暮らしがトラウマとなって長年「海外嫌い」だった。そんな自分が今では自ら望んで海外で働いていることに、自分自身が一番驚いている。

## EYサンフランシスコ

EYは150以上の国と地域で監査・保証業務、税務、トランザクション・アドバイザリーおよびアドバイザリーのサービスを提供しており、全世界を「Americas（北・中・南米）」「Asia-Pacific（アジア・パシフィック）」「EMEIA（欧州、中東、インド、アフリカ）」の3つのエリアに区分して運営しています。EYサンフランシスコは「Americas」に所属する独立した組織です。



Round-Table Discussion

キャリアを拓くのは自分自身。

新しい時代の新しい道を、一歩ずつ進んでいきたい。

若手スタッフが、部門を超えて本音でディスカッション。仕事のやりがいやこれからのキャリアビジョン、その想いを叶える場としてのEY新日本について語り合いました。熱い志は、自分の未来を拓く原動力です。

——どんなやりがいや志を持って仕事に取り組んでいますか。

後藤 私は入社前からヘルスケア産業に興味があり、パブリックセクターが病院への圧倒的な関与実績を持っていること、そして製薬会社等のヘルスケア企業に並行して関与できることに惹かれて、EY新日本に入社しました。監査法人で働く魅力は仕事を通じてさまざまなクライアントの会計事象に触れることにあり、その経験を通じて日ナナレッジを蓄積していくことが面白いです。それによってクライアントにサポートを提供できることが、大きなやりがいです。

山田 後藤さんと同じように、以前から興味があったエネルギー業界のクライアントを多く持っていたことが、EY新日本に入社を決めた理由です。エネルギー業界というのは非常にスケールが大きく、20年以上続くプロジェクトも珍しくありません。監査にも大局的な視点が不可欠です。日本の未来のあるべき姿を描きながら仕事に取り組めるのが面白いです。

村上 公認会計士には、企業と利害関係者の間に立って第三者的な立場から財務諸表に信頼性を付与することが求められます。同時に企業の成長を促し、市場全体の活性化に寄与することも必要です。そんな責任感がやりがいに通じると感じ

ています。往査の際は特にプロとしての自覚と責任を痛感し、社会からの信頼にしっかりと応えなければ、と強く感じます。

田村 学生非常勤という身でありながら、監査チームの一員として責任ある仕事を任されています。発表前の有価証券報告書のチェックを担当したときは身が引き締まる思いがし、公認会計士だからこそ任せられ、信頼されていると痛感しました。今は自分のできることに一生懸命取り組みつつ、先輩の仕事ぶりから少しでも多くのことを学びたいと考えています。



——これからどんなキャリアを歩んでいきたいと考えていますか。

村上 私は女性として長く働く上では資格を身につけるのが有利と考え、この道を選びました。地方出身ということもあり、地元に戻ることがあ

っても公認会計士ならばどこでも活躍できると考えたのです。

後藤 EY新日本には、女性としてのライフイベントと仕事を上手に両立させながら活躍している先輩が多いので、心強いですよ。

村上 はい。まずは大企業の監査を通じてビジネスの仕組みを学び、同時に中堅企業の監査に携わることで監査の全体感をつかみたいと思います。その後は中堅企業に特化したコンサルティング業務に携わり、将来的には地方の活性化に貢献できるような人材を目指したいと思います。

山田 監査だけでなく、税務やIPO、事業再生など、さまざまな支援ができるのも公認会計士ならではのですね。

後藤 私はこれまで監査の業務を通じてクライアントへの理解を深めることができました。そこで感じるのは、クライアントと“伴走する”という関係性の魅力です。将来は病院や製薬会社などの



事業が融合することで生まれるビジネスチャンスに関与しつつ、キャリアの選択肢を広げていきたいと考えています。

田村 会計というのは世界共通の言語ですので、その知識を活かすことでグローバルに活躍できるのではないかと考えたのが、私がこの業界を選んだ理由でした。ですから将来は海外駐在に挑戦したいと思います。一方で会計監査を通じて企業の“あるべき姿”を学んだ上で、IPO業務にも携わりたいという思いもあります。そこで海外企業のIPOに携わり、吸収したベンチャースピリットを日本に持ち帰って、国内企業の成長に貢献できたらと考えています。

山田 自ら将来の可能性を広げていけるのが公認会計士の魅力ですので、私も複数の業務に携わることで将来の選択肢を増やし、自己実現につなげていきたいと考えています。同じチームには公認会計士として業務をこなしながら、弁護士、さらには大学講師としても活躍している先輩がいます。その姿には大いに刺激を受けます。

——職場の環境や周囲のメンバーとの関係は、いかがですか。

山田 今も申し上げたとおり、先輩の姿からはEY新日本の公認会計士の将来には多彩な選択肢があるということを教えてもらいました。当初は私も公認会計士になったからには監査や税務



に特化した働き方をしなくてはならないと思いますが、今後のキャリアの礎となる基盤を固めることができました。

村上 私は就職活動中に、先輩方から親身になってサポートしてもらったことが印象に残っています。公認会計士としての自分の将来像がなかなかイメージできず悩んでいたとき、「悩むのは当たり前、焦ることはない」と励まし、力強くサポートしてくれました。

後藤 私もそうでしたが、新人の頃って、右も左もわからず、赤ん坊も同然です。そんなとき、まるで親のような親密さで導いてくれるのが、EY新日本の先輩だと思います。

田村 感染症対策で在宅勤務が中心なのですが、リモートでもそうした親密さは感じています。質問や疑問点があると、先輩はオンラインミーティングやメールなどですぐに連絡をくれて、サポートしてくれます。

後藤 同期の仲がいいのもEY新日本らしさですね。新卒だけでなく、社会人経験を持つ中途入社仲間も多いのですが、年齢がバラバラであるにもかかわらず、とても仲がいいんです。長いお休みの時はみんなで温泉に行ったりするほど、仲良しですよ。

山田 私の代も同期で沖縄旅行に行きました。田村 うらやましいですね。私たちも横のつながりは大切にしていきたいと思います。

——キャリアを考える上で役に立った研修や、在宅勤務の支援などについてはいかがですか。

村上 新人研修が充実しています。ビジネスマナーや監査人としての在り方、さらには監査スキルなどの基礎をじっくり学んだ後、金融事業部独

自の研修も受けました。全部で約1カ月ほどでしたが、今後のキャリアの礎となる基盤を固めることができました。

田村 海外勤務を希望している私にとっては、英語学習のツールが嬉しかったです。これは社外の学習ツールで、EY新日本が費用を負担してくれます。また、全世界共通の監査プラットフォーム「EY Canvas」というツールを新人である私たちも活用していますが、こうした仕組みのおかげで資料の共有もスムーズに行えるなど、在宅勤務も抵抗なくできています。

村上 新人研修中のweb研修を在宅勤務で受講できたのも、新しく柔軟な働き方を体感する上でよかったですね。



山田 年数回、カウンセラーとの面談があるのですが、私はキャリアを考える上で、いつも相談に乗ってもらっています。私のイメージするキャリアを実践している先輩を紹介してもらったこともあり

ました。後藤 カウンセラーとの面談では、女性ならではのキャリア形成についてアドバイスをもらうこともできます。新しい一歩を踏み出そうするときも力強く支えてくれるので、勇気を持ってキャリアを拓いていくことができるでしょう。とても心強いです。

山田 統二郎

第4事業部 スタッフ  
2019年入社／商学部卒  
「体を鍛えるために朝から運動しています。昼には、そんな自分へのご褒美として和菓子いただきます」

後藤 彩風

第4事業部 スタッフ  
2018年入社／商学部卒  
「旅行が好きです。出張も多く、目標は47都道府県制覇。現在は約半分に足を運びました」

Yamada Tojiro

Goto Sayaka

Murakami Kurumi

Tamura Keigo

村上 胡桃

金融事業部 スタッフ  
2020年入社／商学部在学中（学生非常勤）  
「最近、料理に凝っています。得意なのは炊き込みご飯や天ぷらなど。和食党なんです」

田村 圭吾

第2事業部 スタッフ  
2020年入社／経済学部経営学科在学中（学生非常勤）  
「在宅で過ごすことが多いのでイスにはこだわっています。オンライン配信サービスの韓国ドラマに夢中」



## 地区事務所対談 大阪×福岡 道は拓ける。どこから歩み出そうとも。

北海道から沖縄まで、日本全国に拠点を置くEY新日本は、各地域のニーズに応える品質の高いサービスを提供しています。地区事務所ならではのやりがい、エリアの違いにとらわれないキャリアの可能性などについて、大阪事務所のパートナーと福岡事務所のシニアマネージャーをご紹介します。

### キャリアを積むことで将来の 選択肢も増えていく

**廣住** 高井さんは関西のご出身でしたね？

**高井** ええ。ただ、入社時こそ大阪事務所でしたが、その後は長く東京事務所にいましたし、EYロンドン事務所の駐在も経験しました。

**廣住** 異動が多かったんですね。

**高井** そうなんです。EY新日本はキャリアを重ねていくにつれて将来の選択肢も増えていくところが魅力の一つだと思います。東京事務所で働きたい、海外で挑戦してみたいという希望を出したとき、快く背中を押してくれるのがEY新日本ですよ。

**廣住** 私は10年以上東京事務所にいましたが、その間、監査チームは何度か変わっているんです。スタートはグローバル企業の監査チームに所属して仕事の基礎を学び、その後関与する業種の幅を広げたいという気持ちで、業種の異なるいろいろな企業の監査を担当していました。マネージャーに昇格後は、再びグローバル企業の監査に挑戦したいとの想いで異動しました。1カ月間の海外語学研修も経験しています。

**高井** 将来のキャリアがどうなっていくか、入社前には自分でもなかなか見えていないと思うんですよ。だからキャリアの途中でも多くの選択肢があるというのは、ありがたいことです。

**廣住** 選択肢が多いということは、自分を取り巻く環境について、主体的に変えられるということですよ。新しいクライアントとの出会いや新しいチームでの仕事は必ず自分の成長につながりますし、モチベーションも高まります。自分の殻を打ち破る力も得られるでしょう。

**高井** 私は、公認会計士というプロフェッショナルな職業を選んだ人間として、どんなふうに時代が変わっていかうと常に先頭を走り続けたいと決めて、この業界に飛び込んできました。自ら望んでIFRSデスクの仕事を経験したのも、その想いからです。「現状維持は退歩なり」とい



う言葉がありますが、まさにこれが私の人生のモットーです。

**廣住** そうしたプロとしてのキャリアの選択をする上で、東京事務所と地区事務所に違いがあったくないのも、EY新日本らしさですね。



Takai Daiki

### PARTNER

## プロとして、どんな時代になろうとも 常に先頭を走り続けていきたい。

### キャリアの可能性を高める上で 拠点の違いはない

**高井** 廣住さんは、東京から福岡に転勤されたわけですが、大きな決断だったでしょうね。モビリティ制度を利用されたのですか？

**廣住** ええ。子供たちを自然豊かな環境で育てたいというのが一番の理由で、モビリティ制度を利用して異動を実現しました。福岡は妻の実家があるため、時には実家の助けも借りながら仕事とプライベートを両立しています。

**高井** なるほど、公認会計士としてのキャリアに加え、プライベートなライフプランの上でもいい選択をされましたね。

**廣住** もちろん不安がなかったわけではありません。一番の懸念は、東京でなければできない仕

# Conversation

### SENIOR MANAGER

## 大切なのは、どんな道を歩むかということ。 楽しみながら成長していきたい。



Hirosumi Masahiro

事があるんじゃないか、地区事務所だと成長できる環境がないんじゃないか、ということでした。

**高井** なるほど。でも、実際は杞憂だったのでは？

**廣住** ええ。福岡事務所だからといって公認会計士としての仕事が変わるわけではないですし、やりがいも東京時代と同じです。

**高井** 私の大阪事務所は700人ほどです。で、東京の一つの事業部と同じ程度の規模です。だからグローバル業務に強い人材、税務に精通した人材と、各分野のプロフェッショナルがそろっていて、東京事務所と変わらない環

境で仕事できています。クライアントは地元企業が多いですが、東京に本社を移す大企業もあり、その場合は引き続き大阪事務所の担当者が監査を行うケースが多いですね。私もまさにそうなのですが、地元で大きく育った企業がいよいよ全国で勝負しようと東京に出ていくのを応援する気持ちになります。

**廣住** 地元企業の中でもトップクラスの企業をクライアントとして抱えているのがEY新日本の地区事務所です。福岡事務所も九州の名門企業をクライアントとしており、それこそ地元紙の一面に掲載される企業の多くを担当しています。グローバル企業も多いですし、その点でのやりがいは大きいですね。そのほかにも、福岡市が国家戦略特区を活用してスタートアップ企業を応援しているため、IPO案件が多いというも、福岡事務所の特徴です。

**高井** 確かにそういう恐怖心はありますね。だからこそキャリアの道は自ら切り拓いていかなければならないと思います。去年の調書を参考に、同じような仕事をしていればいい、という姿勢ではなく、常により良い結果を出せるよう、成長し続けることが大事だと思います。

**廣住** それは東京事務所だろうと地区事務所だろうと同じですね。どんな環境にしようキャリアを選択するのは自分次第ですし、「地区事務所からできない」ということはまったくありません。

**高井** その点、EY新日本にはどの事務所にしようとも成長できるプラットフォームがあると思います。そのプラットフォームを活用しつつ、プロフェッショナルとして成長しようという意欲のある方を歓迎したいですね。

**廣住** 同感です。大切なのは“出発点がどこか”ではなくて“どんな道を歩んでいくか”だと思います。ぜひ大きなビジョンと強い意志を持って入社していただきたいと思います。



**高井** 地区事務所ならではのカルチャーはいかがでしょう。

**廣住** 一番はアットホームということでしょうね。全員の顔と名前が一致するので、事務所の風通しはとてもよいと感じています。パートナーの席もすぐ近くで、気軽に言葉を交わしています。

**高井** 大阪事務所も同じですよ。私はスタッフ時代以来、11年ぶりに大阪事務所に戻ったのですが、大変温かく迎えていただきました。地区事務所は地元出身者が多いのでは、というイメージを持たれる方もいらっしゃると思いますが、そんなことはまったくありません。どこもオープンでフェアな雰囲気です。

**廣住** 私のように地元出身でないメンバーも少なくないですし、これもEY新日本ならではの多様性を大切にするカルチャーではないでしょうか。

### どんな環境にいても、キャリアを 拓いていくのは自分自身

**廣住** 先ほど高井さんが「現状維持は退歩なり」という言葉を教えてくださいましたが、これからの時代はますますその意識が重要になりますね。公認会計士を取り巻く環境は激変しつつあり、足を止めたら終わりのような気がします。

**高井** 確かにそういう恐怖心はありますね。だからこそキャリアの道は自ら切り拓いていかなければならないと思います。去年の調書を参考に、同じような仕事をしていればいい、という姿勢ではなく、常により良い結果を出せるよう、成長し続けることが大事だと思います。

**廣住** それは東京事務所だろうと地区事務所だろうと同じですね。どんな環境にしようキャリアを選択するのは自分次第ですし、「地区事務所からできない」ということはまったくありません。

**高井** その点、EY新日本にはどの事務所にしようとも成長できるプラットフォームがあると思います。そのプラットフォームを活用しつつ、プロフェッショナルとして成長しようという意欲のある方を歓迎したいですね。

**廣住** 同感です。大切なのは“出発点がどこか”ではなくて“どんな道を歩んでいくか”だと思います。ぜひ大きなビジョンと強い意志を持って入社していただきたいと思います。



EY新日本では、次世代を担う人材を対象とするSTEAM<sup>(※)</sup>人材育成プログラム「Japan GradLab」を創設しました。既に入社1年目から4年目までのスタッフ26人による第1期生のプログラムが修了。その成果を発表する場では、EY新日本の変革を予感させる衝撃を与えました。第1期生の代表5人が、Japan GradLabでの体験をオンラインミーティングで振り返ります。

※STEAM=科学・技術・工学・数学に芸術的要素のArtを加えたもの

——Japan GradLab参加のきっかけを教えてください。

**依田** 兼務する本部メンバーからJapan GradLabの概要を聞いて「面白そうなのが始まりそうぞ」と思ったのが最初ですね。第一印象で決めました。

**村上** Japan GradLabはグループ長がご紹介くださり参加しました。入社前からEY新日本はDigital Auditに力を入れていると感じていたの



**花井 伸大朗** (写真左上)  
金融事業部/2017年入社  
金融事業部に配属後、2年目からEYアドバイザー・アンド・コンサルティングに出向し、IT監査、IT統制を担当する。Japan GradLabでは「分析コース」選択。

**依田 章宏** (写真真中上)  
金融事業部/2017年入社  
保険会社の監査に携わる一方で、アシュアランスイノベーション本部「AIラボ」にも所属しAI監査ツールの開発を担当する。Japan GradLabでは「企画コース」選択。

**小泉 鷹也** (写真右)  
第1事業部/2018年入社  
化学メーカーの監査を担当する一方で、アシュアランスイノベーション本部「AIラボ」も兼務。Japan GradLabでは「開発コース」選択。

**佐藤 佑哉** (写真左上)  
第3事業部/2019年入社  
重工業メーカーの監査に携わる。Japan GradLabでは「開発コース」選択。

**村上 悠花** (写真中央下)  
第2事業部/2019年入社  
学生非常勤として一般消費財メーカーの監査に携わる。Japan GradLabでは「分析コース」選択。

で、とても魅力的なプログラムだと感じました。

**花井** 私も所属するセクターの先輩から話を聞いて興味を持ったんですが、出向中ということが気になって問い合わせたところ、「出向中でも大歓迎」とのことだったので説明会に足を運ぶことにしました。そこで話を聞いて、依田さん同様、シンプルに面白そうだと感じました。新しい時代が始まるような雰囲気でしたね。

**依田** 確かにあの説明会は印象深かったですね。ここにいるメンバーも含めて、参加していた人はみんな目がキラキラして、本当に志が高いと驚きました。ハイポテンシャルな仲間たちと1年間一緒に新しいことに挑戦できるという、それだけでワクワクしました。

**佐藤** 私はEY新日本に入社する決め手の一つがJapan GradLabでした。というのも趣味でプログラミングを勉強していたのですが、私のような新人にも、テクノロジー人材を育成する場が開かれているのはEY新日本だけだったんです。

**小泉** 実は私の前職はITベンチャーのシステム



Japan GradLabのコース

|     |                                                              |
|-----|--------------------------------------------------------------|
| 企 画 | デザイン思考をベースに監査現場の課題を識別し対策を立案・推進できるプロフェッショナルを育成                |
| 分 析 | 監査現場で自動化ツールを使いこなし、データドリブン監査を実践できるプロフェッショナルを育成                |
| 開 発 | 監査現場経験とプログラミングスキルを活かして監査現場に役立つソリューションをアジャイル開発できるプロフェッショナルを育成 |



エンジニア (SE) で、公認会計士へキャリアチェンジする形でEY新日本に入社しました。Japan GradLabの話を聞いたときは、まさしく自分のテクノロジースキルをアップデートするチャンスだと感じて、即座に参加を決めました。

**依田** 小泉さん、SE時代を思い出して久々に血が騒いだのでは？

**小泉** ええ、まさかEY新日本でプログラミングをすることになるとは、想像もしていませんでした。

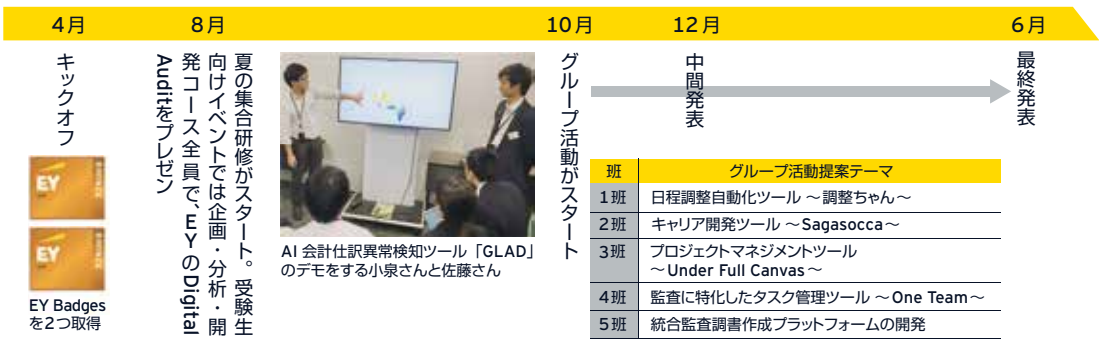
——実際にJapan GradLabに参加していかがでしたか。

**村上** 大学の夏季休暇に合わせた研修日程にするなどさまざまな配慮があり、学生非常勤でも参加することができました。監査業務に加え、Japan GradLabにも参加させていただき、充実した日々でした。

**佐藤** 私も当時は学生非常勤でしたので、村上さんと同じく、そうした配慮のおかげで勉強と両立できました。

Japan GradLab1期生の年間スケジュール

前半はEY Badges取得と集合研修がメイン。企画・分析・開発の3要素をバランスよく学び、体験しました。後半は正味2週間程度のグループ活動。監査現場の課題を各班で設定し、ソリューションを開発、最後には理事長らにプレゼンしました。



**依田** 5つのグループに分かれて課題に取り組み、具体的なソリューションを開発して、最後にプレゼンを行ったじゃないですか。若手がこれだけのものを提案したというので、理事長はじめ、皆さんびっくりしていましたね。

**村上** 私のチームは「統合監査調書作成プラットフォーム」を開発しました。監査調書の作成を自動化できるツールで、基本的な機能はしっかりと実装できました。

**花井** 私のチームでは「日程調整自動化ツール」を作成しました。チームにプログラミングに精通したメンバーがいなかったため、手分けして基礎から試行錯誤しながら作業を進めたのが思い出に残っています。監査業務だけでなく、事務作業にも応用できる汎用性が好評でした。

**小泉** 在宅勤務での進捗確認などのコミュニケーションを助ける「タスク管理ツール」を開発したのですが、人手が足りずに最終的に完成まで至らなかったのが残念です。でも、精一杯やりきったという完全燃焼の手応えを味わいました。

**佐藤** 私は依田さんと同じチームでした。開発力の高いメンバーが揃っていて、監査のマイルストーンを管理するツールをつくることができました。特にこだわったのは実際の業務で使え



るかどうかという点で、データ分析自動化ツール「Alteryx」を活用しながら、全世界共通の監査プラットフォーム「EY Canvas」に連携させることで、EY Canvas自体の進化も提案しました。

**依田** 中間発表では実際にマネージャーをお願いして使っていただき、その結果を開発にフィードバックもしました。今後は本気で実用化を目指したいですね。

**小泉** 私はシドニー訪問も記憶に残っています。Japan GradLabはEYシドニーの「GradLab」が起源で、両者のコラボレーション企画に参加しました。AI会計仕訳異常検知ツール「GLAD」を英語で説明するなど、非常にチャレンジングな経験になりました。

**依田** 第1期生の5チームの中で最も優秀だったチームにはシドニー研修が優勝賞品としてプレゼントされましたね。第2期生以降、これから参加する皆さんにはぜひシドニー目指して頑張ってくださいと思います。

——現状の課題と将来の展望について、皆さんのお考えを教えてください。

**佐藤** Alteryxによって大量のデータのクレンジングが可能になるなど、工程を劇的に削減できる画期的なツールは今後さらに誕生するでしょう。実際にそれらを活用するには、クライアントを巻き込んでいくことも必要かと思います。

**依田** クライアントとの“共創”ですね。データドリブンな監査の実現には、クライアントと手を携えていくことが不可欠でしょう。

**村上** Japan GradLabに参加し、今後デジタル化はさらに進んでいくことを確信しまし



た。同時にグローバル化も一層進むでしょうから、“デジタル×グローバル”の中で活躍できる人材を目指したいと思います。

**佐藤** 村上さんと同意見です。監査法人に飛び込んでみて驚いたのが、我々は想像以上にシステムの中で仕事をしているという事実です。まさに“システムの中を泳いでいる”というのが実感です。その中で公認会計士がバリューを発揮していくには、目に見えるデータの裏側にあるシステムをうまくコントロールする必要がある。そんな人材を目指したいですね。

**花井** 今後の監査においてはデータの信頼性がますます問われるようになるでしょうが、そのデータがどのシステムを経由し、どんな処理をされて出てきているのかということが判断できるようになりたいと思います。これからの公認会計士はそこまで踏み込んでいかなければならないでしょう。

**依田** 近い将来、プログラムのコードが読める公認会計士が求められるかもしれませんね。今回のGradLabの成果発表を見て、私自身、皆さんの先進性には度肝を抜かれました。私もその一員として、今後は業界全体の度肝を抜くような存在を目指したいと思います。

EY BadgesとEY Tech MBA

EY Badgesは、アナリティクスやテクノロジー、セクター（業種）といった専門分野の学習・経験・貢献の機会をEYが用意し、そのリテラシーをEYが認定する制度です。Udemyなどの人気の講座も無料で受講可能です。EY Badgesをもとに挑戦できる制度がEY Tech MBAで、履修分野に応じたEY Badges取得や論文など所定の履修要件を満たせばEY新日本で働きながら無料でMBAを取得できます。

【動画】Smart Audit A-202X

監査先企業と監査法人双方でさらなるデジタル化が進んだ2020年代をイメージし、ある会計士の1日を描きました。ここでは、監査に必要なデータに常時アクセス可能な環境下で、ロボティクスやAIを活用し異常な取引や不正の兆候をリアルタイムでモニタリングしていく継続的監査の世界が広がっています。





## EY (Ernst &amp; Young)

## 組織概要

EY (Ernst & Young) は、ロンドンを本部所在地とし、150以上の国と地域に約28万4千人を擁する、アシュアランス、税務、ストラテジー・アンド・トランザクションおよびコンサルティングサービスの分野における世界的なリーディングファームです。Americas（北・中・南米）、Asia-Pacific（アジア・パシフィック）、EMEIA（欧州・中東・インド・アフリカ）の3つのエリアから成り立っています。

## 150以上の国と地域

## 約284,000人

**EMEIA**  
（欧州・中東・インド・アフリカ）  
約114,000人

**Asia-Pacific**  
（アジア・パシフィック）  
約56,000人

※2019年7月1日付けで、EY JapanとEY Asia-Pacificが統合しました。

**Japan 約8,000人**

※EY Japan全メンバー数です。

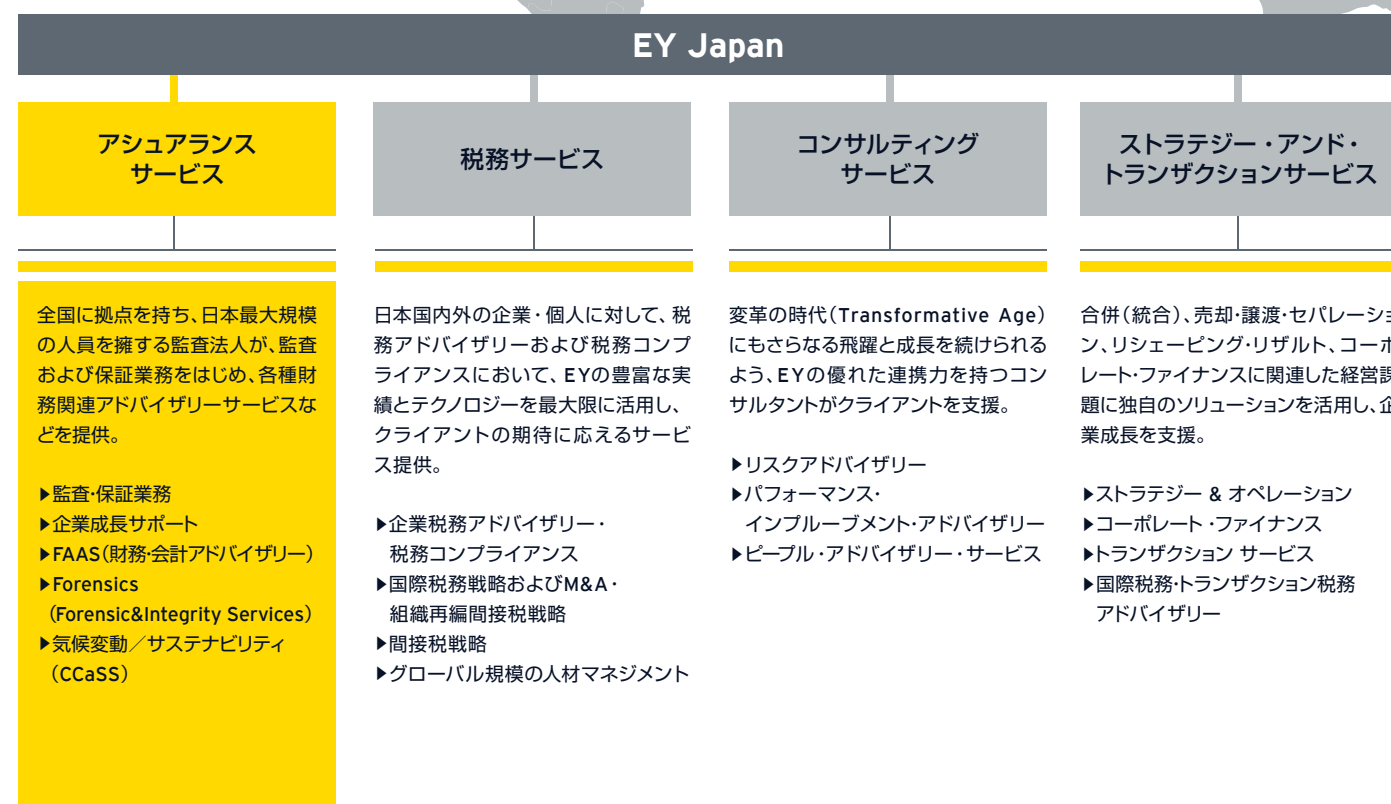
EY新日本有限責任監査法人  
EYトランザクション・アドバイザリー・サービス株式会社\*  
EYアドバイザリー・アンド・コンサルティング株式会社\*  
EY税理士法人  
EY弁護士法人 ほか

※「2020年10月1日よりEYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社に統合」

グローバル総収入：364億米ドル

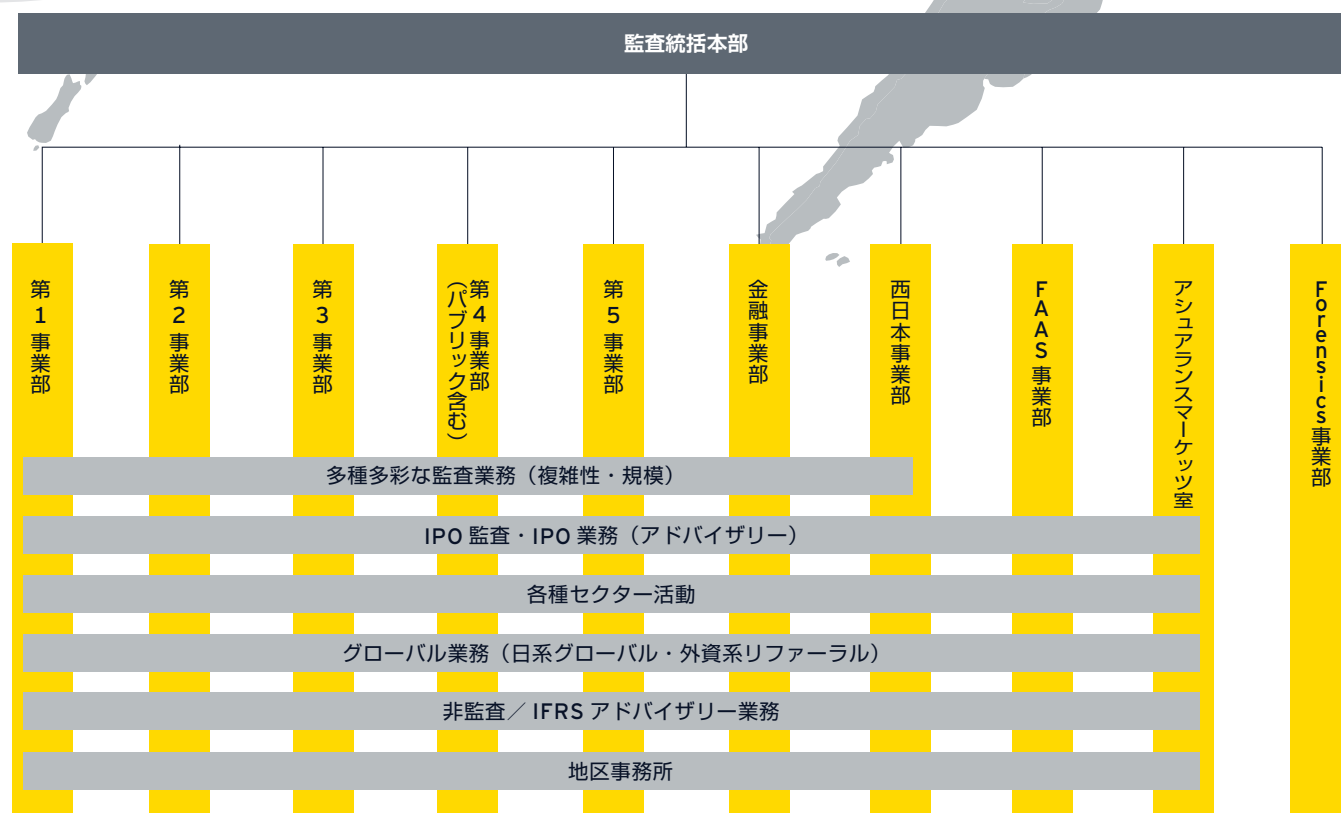
## EY Japan 4サービスライン

EY JapanはEYの日本におけるメンバーファームの総称です。EY Japanはアシュアランス、税務、コンサルティングおよびストラテジー・アンド・トランザクションなどの各社のプロフェッショナルが相互に連携し、案件ごとに最適なチームを編成し、サービスを提供しています。



## アシュアランスサービス EY新日本の「監査事業部」の組織構造

EY新日本では、主に監査業務を提供する事業部として第1から第5事業部、金融事業部、西日本事業部があります。また、財務会計アドバイザリー業務（FAAS事業部）、不正アドバイザリー業務（Forensics事業部）があります。





## Training

### キャリアを切り拓き挑戦するための支援制度

EY新日本では、皆さんが希望するキャリアへ挑戦できるよう、充実のサポート体制を整えています。豊富な人材育成プログラムを活用して、皆さんのキャリアプランを実現してみませんか。

## 人材育成プログラム

EY新日本は「最新のデジタル技術を活用し、卓越した知見に基づいた保証業務の提供により、ステークホルダーに高い付加価値を与え、グローバルな経済社会の円滑な発展に貢献するプロフェッショナル集団」をAmbition（私たちの目指すべき姿）として掲げています。私たちは、職業的専門家として、高度な専門性、高い倫理観、多様な実務経験を備えたプロフェッショナルの集団でなくてはなりません。これに加え、デジタル化時代に対応して、ITリテラシーの向上を図るとともに人だからこそ可能なプロフェッショナルとしての知見を提供するこ

と、グローバル化時代に対応して、グローバルマインドを備え、海外のネットワークを駆使してグローバルにリーダーシップを発揮することも求められます。EY新日本ではキャリア開発に欠かせないLearning（研修）、Experience（経験）、Coaching（コーチング）の三つの要素を体系的に位置づけて人材育成を行っています。その内容は時代の要請に合わせて柔軟に変化させており、社会の期待に応える真のプロフェッショナルの育成を目指しています。



# Learning

### 研修（階層別・分野別・専門別研修）

メンバーが自らのキャリアプランに合わせて自発的に受講できるよう、多彩な研修メニューを用意しています。業務を遂行する上で不可欠な基本スキルを身に付け、メンバーの専門性の維持・向上を図るための体系的な研修、そしてプロフェッショナルとしての人間力を高めていくための研修がその柱です。また研修受講機会の多様化を図るため、多くの研修をeラーニング化し、スマートフォンやタブレットといったモバイル端末からも受講可能にしています。

## Audit Academy

グローバルで最新のテクノロジーを使用した革新的な教材、Audit Academyを職階別研修のカリキュラムとして導入しています。主査からのSkypeを使った指示や、メールなど、インタラクティブなシステムを使用した臨場感あふれるシミュレーションの導入により、監査現場でプロア

クティブに考えられる人材を育成できるプログラムとなっています。監査実務、プレゼンテーション、ファシリテーションの経験が豊富な認定インストラクターが、研修講師としてプログラムをリードし、非常に密度の高い学び時間を過ごすことができます。



### 昇格時研修

EYグローバルでは、毎年、世界中から新パートナーが集合し研修を行っています。新パートナー研修では、毎日グループディスカッションが実施されるなど、世界各国の新パートナーが交流を深め、ネットワークを築くさまざまなイベントが企画されています。また、家族等の同行も推奨され、同行者も含めたディナーパーティー等、EYファミリーを経験できるイベントが行われ

ます。新シニアマネージャーにおいても、国内の研修のみならず、グローバルで行われる研修もあり、海外のシニアマネージャーとネットワークを築くことができます。新マネージャー、新シニア昇格時も国内で一堂に集い、トップメッセージ、外部講演、ランチパーティーなど昇格を盛大に祝うイベントが開催されています。



### ラーニングマップ

|       |      | スタッフ                                                                                                                                                                                                                                                                                        | シニア                                                                                                                                                                                                                   | シニアマネージャー・マネージャー                                                                                                                                          | シニアパートナー・パートナー                                                                 |
|-------|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|
| 職階別研修 |      | <ul style="list-style-type: none"> <li>▶監査業務のフレームワーク</li> <li>▶監査ツール操作研修</li> <li>▶実査立会確認研修</li> <li>▶企業組織総論</li> <li>▶監査計画と戦略</li> <li>▶各勘定科目の実証手続</li> <li>▶内部統制の整備状況評価方法、運用状況評価方法</li> <li>▶サンプリング技法</li> <li>▶データアナリティクス基礎</li> <li>▶監査調査作成演習</li> <li>▶内部統制監査</li> <li>ほか多数</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>▶新シニア研修</li> <li>▶監査手続の実施と総括</li> <li>▶テクニカルライティング</li> <li>▶監査におけるプロジェクトマネジメント</li> <li>▶全般的分析手続の効果的な実施</li> <li>▶見積取引の識別と実証手続の実施</li> <li>▶統制の不備の評価</li> <li>ほか多数</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>▶新シニアマネージャー研修</li> <li>▶新マネージャー研修</li> <li>▶監査業務マネジメント</li> <li>▶初度監査</li> <li>▶専門家の業務の利用</li> <li>ほか多数</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>▶新パートナー研修</li> <li>▶パートナー研修会</li> </ul> |
| 分野別研修 | IFRS | <ul style="list-style-type: none"> <li>▶IFRS 基礎認定</li> <li>▶IFRS アップデート 等</li> </ul>                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                           |                                                                                |
|       | 税務   | ▶税制改正アップデート 等                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                           |                                                                                |
|       | 会計   | <ul style="list-style-type: none"> <li>▶会計基準アップデートセミナー</li> <li>▶決算留意事項セミナー 等</li> </ul>                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                           |                                                                                |
|       | 監査   | <ul style="list-style-type: none"> <li>▶品質管理アップデート研修</li> <li>▶不正事例研修 ▶データアナリティクス研修 等</li> </ul>                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                           |                                                                                |
| 専門別研修 |      | <ul style="list-style-type: none"> <li>▶銀行業研修 ▶学校法人研修・国立大学法人研修</li> <li>▶US 基準研修 ▶IPO 研修 ▶セクターナレッジ研修 等</li> </ul>                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                           |                                                                                |
| スキル   |      | <ul style="list-style-type: none"> <li>▶情報セキュリティ研修・独立性研修 ▶ハラスメント研修 ▶コンプライアンス研修</li> <li>▶贈収賄防止研修▶プロマインド研修 ▶ファシリテーション研修 ▶ロジカルシンキング研修</li> <li>▶プレゼンテーション研修 ▶コーチングワークショップ ▶カウンセラーワークショップ</li> <li>▶フィードバック研修 ほか多数</li> </ul>                                                                  |                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                           |                                                                                |

### 認定インストラクター制度

より実のある研修を実施するためには、研修内容の充実も大切ですが、講師の質を確保することも重要です。豊富な監査実務経験のみならず、プレゼンテーション、ファシリテーションなどの講師スキルを有する人材を認定インストラクターとして選抜き、社内研修講師を担当しています。外部講師養成講座の受講、ベテラン認定インストラクターからの講義フィードバックなど、継続的な講師育成にも力を注いで

います。EY新日本では認定インストラクター制度を創設して約10年が経過し、数多くの講師ノウハウが蓄積され、認定インストラクターの中には外部において講師として活躍している方も少なくありません。毎年認定インストラクターAwardにおいて、「是非また講義を受けたい講師No.1」など貢献度の高い講師への表彰も行っています。皆さんもEY新日本の研修ぜひ受けてみませんか？



**前川 知之**  
2015年10月入社  
第1事業部 マネージャー



**山田 智子**  
2016年10月入社  
金融事業部/アシュアランスイノベーション本部兼務スタッフ

## EY Badges

EY新日本の研修の中には「EY Badges」という制度があります。この制度は全世界のEYメンバーが受講できる研修制度で、テクノロジー関係を中心としてAI、RPA、Blockchainなどの各分野で知識と経験を得ることにより、Bronze、Silver、Gold、Platinumといったレベルに応じたBadgeを取得できる制度です。私が取得した「Data visualization」はさまざまなデータを視覚的に表現しその特徴をとらえる専門分野ですが、私の場合は金融事業部にてEY Helixという総勘定元帳データを分析するアナリティクス・ツール導入に関与していたことを契機に、さらにITの知識と経験を広げたいと思い取得しました。研修時

間の確保や英語による講義は大変でしたが、Badgeの取得はその分野の専門スキルの裏付けになり、ほかのサービスラインとの連携を含め、さまざまな業務に挑戦できる機会が広がると思います。現在は、Digital Audit推進部と金融事業部に所属していますので、今後は、金融に限らず、総勘定元帳より上流の財務データを可視化して監査業務に活用したり、データ・アナリティクスに不可欠なデータ加工をプログラミングによって自動化したりと、ITと監査をより密接に融合させて実務に役立てていきたいと考えています。



# Learning

## グローバル化への対応

ビジネスのグローバル化が進む環境の中で、日本国内への対応にとどまらず、グローバルな体制により高い監査品質を実現することが必要とされます。そのためには、コミュニケーションツールとして十分な英語力を保持し、海外のネットワークを駆使しながら、グローバルにリーダーシップを発揮できるマインドを備えた人材の育成が不可欠であると考えています。

英語力のさらなる充実を図るための機会を確保し、グローバルにリーダーシップを発揮できる人材の育成を行っていきます。

### ▶主なグローバル人材育成プログラム



### 英語力のさらなる充実

英語力をより一層向上させるため、以下のような取組みを行っています。

- ▶オンライン英会話レッスンを受講する機会を提供しており、数多くのEY新日本のメンバーが英語力アップの機会として活用しています。
- ▶監査の基本理論や実践を学ぶ、年次ごとの職階別研修の一部を英語化したことで、日常的に英語を使う環境の整備を進めています。
- ▶英語学習専門家によるコーチングプログラムを新規に導入し、より効率的かつ効果的な新たな学びの形式を提供しています。



## Global Exchange Program

Global Exchange Programとは、他国のEYオフィスに1年半ほど出向できる制度です。私はEYニューヨーク事務所です。20カ月過ごしましたが、現地はUp or Outの環境だったため、仕事で良い評価を獲得することへの追求が非常に強く、仕事に対する意識や姿勢は見習うべきものが多かったです。また、現地では日系クライアントを中心に、その他現地のメディア・不動産・製造業等の会社を担当しましたが、現地職員と文化、言語、育った環境等に違いはあっても、EYという共通項で分かり合え、一緒に仕事ができるというのは素晴らしいことで、EYという共通点

でつながりを持てるのがGEPの醍醐味だと思いました。また、EYの中に、日本企業の海外事業展開をサポートする組織が海外にあることの意義、日本のクライアントが海外進出しそこで頑張っているからこそ、私たちの仕事があるということのありがたみを肌で感じました。これから時代やニーズの変化とともに、組織も形を変えていくと思いますが、私は常に変化に柔軟で在り続け、新しいことにチャレンジし続ける精神と、パッションを大事にしたいと考えています。



中谷 恵理子  
2008年12月入社  
第2事業部 マネージャー

## Global New Horizons

Global New Horizonsは、3カ月の海外派遣プログラムです。赴任先では監査チームに加わり、主に現地のクライアントに対する監査関連業務を経験します。私はオーストラリアのEYメルボルン事務所へ赴任しましたが、当時は事務所に日本人が私一人という環境で、今まで携わったことのない業種の現地クライアントに内部統制 (US-SOX) を導入するプロジェクトに関与するなど、これまでとは全く異なる環境に身を置くことになりました。さらに米国、中国、フランス、ブラジル、コロンビアなど様々な国出身のメンバーで構成されるチームでした

が、そういった環境であっても、EY グローバルで統一された監査ツール、監査のメソドロジー、会計などの共通インフラをキーに徐々に現地メンバーと打ち解けることができました。Global New Horizonsでは日本では経験することの難しい環境に身を置くことができ、また、EYがグローバルファームであることを肌で感じることができました。この経験を通じ、多種多様な価値観に触れることで、よりグローバルな視点を持ったキャリアをイメージすることができるようになりました。



古川 倫光  
2015年2月入社  
第2事業部 シニア

## IILC

国際インターンシップ  
リーダーシップ  
カンファレンス

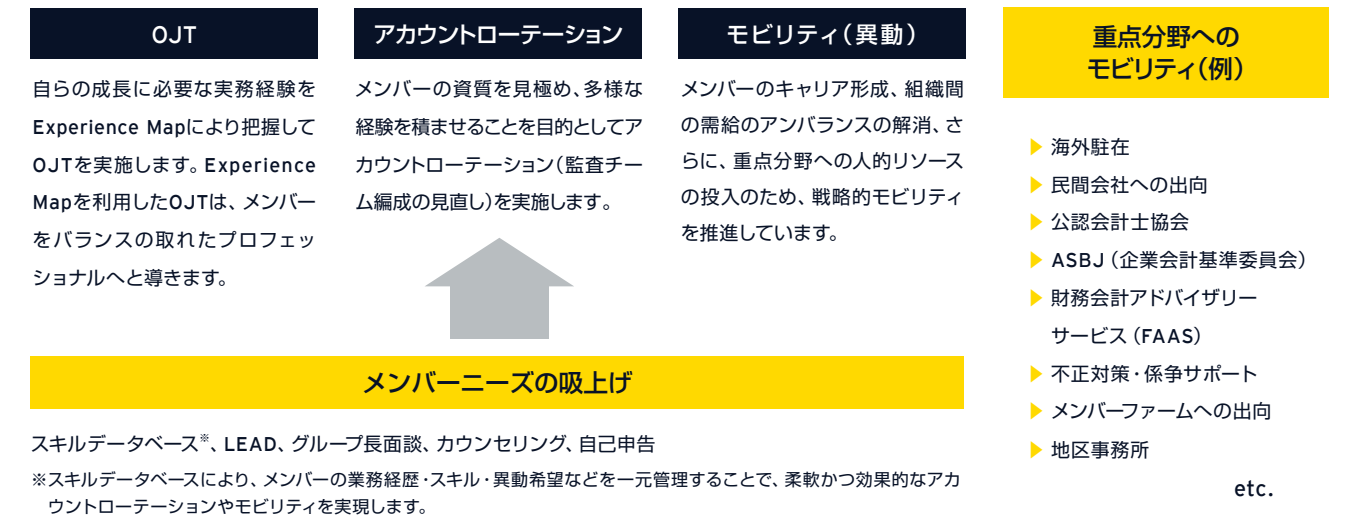
室橋 侑平  
2018 年 2 月入社  
第3事業部 スタッフ

フロリダのディズニーワールドで開かれる、EYグローバルを構成する各国・各サービスラインからインターンを中心とした約3,500人が参加するイベントです。お祭りのような雰囲気の中進んでいく4日間ですが、グループワークやディスカッション等、アイデアや積極性が強く求められるプログラムも多数織り込まれています。数日間ではありますが、EYグローバルの圧倒的なスケールと共に、プログラムから会場づくりに至るまで、徹底的に詰め込まれているEYカルチャーが世界共通であることを肌で感じることができます。また同時に、自分の胆力を培うことのできる貴重な機会でもありました。言語の差だけでなく、すべてにおいて多様な価値観とバックグラウンドを持つ個人が、一緒になって与えられた問いに対しさまざまなアイデアを持ち寄って一つの解を見出していく過程は、難しくもありましたがとても新鮮でもありました。スタッフの間に世界の同世代と直接触れあうことのできる数少ないチャンスですので、ぜひ挑戦してみたいいかがでしょうか。



# Experiences

日常業務におけるOJTに加え、プロフェッショナルとしての成長やキャリア形成の観点でさまざまな制度やプログラムが準備されており、上司やカウンセラーとのコミュニケーションを通じて、一人ひとりのキャリア目標に必要な経験を達成することができます。



# Coaching

カウンセラーからのフィードバックや、業務で一緒になる上司からのアドバイスなど多面的なフィードバックを日常的に行い、業務の質を高めるとともに、プロフェッショナルとしての自律的な成長を促しています。

EYの基本概念であるコーチングはLEAD運用を通じて、個々人に応じた能力開発を実践しています。カウンセラーとの定期的な面談だけでなく、上司による日常的なフィードバックも重視されます。コーチングする側にも、スキルを得るためのプログラムが用意され、コーチングスキルの向上を通じて、自らの能力開発につながります。

## LEAD (Leadership Evaluation and Development)

すべてのメンバーに、キャリアの先輩であるカウンセラーが任命されます。過去よりも未来にフォーカスしたコーチングや指導、有意義な対話を行うことで、カウンセラーの経験がより充実したものとなるように導きます。さらに業務を直接指導・評価するフィードバックプロバイダーからは、業務上の評価やスキルアップについてのアドバイスを受けることができます。

## エクセレントカウンセラー

真のカウンセリングカルチャーを醸成するために、エクセレントカウンセラー制度を新設しました。経験豊富なカウンセラーを選抜し、研修等で事例共有などにより定期的なスキルアップを図ります。また、人材開発本部にキャリアコンサルタント (国家資格) 保持者が約10人おり、専門的な知見も活用しながら、皆さんのキャリアをサポートする体制を構築していきます。



## Diversity &amp; Inclusiveness

## ダイバーシティ &amp; インクルーシブネス

2019年7月、EY新日本で四大法人初の女性理事長が誕生しました。

EY新日本は、「増える」「続ける」「伸びる」の三つのステップで女性を育成しています。女性や働くパパのワーク・ライフ・バランスを全面的にバックアップし、また一人ひとりの違いを尊重するEY新日本では、外国人、障がい者、LGBT+の方も活躍しています。



安藤 勇 Ando Isamu

EY Japanダイバーシティ&インクルーシブネス (D&I) 推進責任者  
シニアパートナー  
(2020年6月現在)

1998年入社。2006～08年、EYシカゴ事務所に駐在。2012年パートナー昇格。共働き家庭で3児の父。家事・育児の一環として毎日の朝食づくりを日課としている。

## 一人ひとりの「違い」を尊重し合える職場づくり

私には仕事を持つ妻と三人の子供がおり、第1子と第3子の誕生時に育児休業を取得しました。第3子の時はパートナー昇格の時期でしたので、非常に勇気が要りました。私の気持ちを奮い立たせたのは、米国駐在時の経験と周囲のサポートです。米国では父親が当然のこととして育児を担っていました。子育てにかかわることで、その素晴らしさと大変さ、周囲のサポートの重要性を身をもって理解しました。日本は社会的な風潮としていまだに育児や家事において女性への負担が大きい部分はあるかもしれませんが。しかし私は男性には仕事と同様に育児と家事にも責任を持ってほしい、また女性にはライフイベントを乗り越えて活躍して欲しいと願っています。

EY新日本は、最高の職場環境をメンバーに提供することにコミットしています。クライアントの理解を得ながら在宅勤務やモバイルワークなどのリモートワークの環境を整備し、この結果、大半のメンバーが在宅勤務を利用するに至っています。また、多くのメンバーが選択型シフト勤務や中抜け勤務を利用してプライベートを充実させています。これらはFlexibility for Allという考え方

の下、育児・介護などの制約にかかわらず利用できる制度です。

柔軟な働き方の浸透に伴い、マネージャーの女性比率が2019年10月には19%に達し、女性のリーダー層が増えてきました。一段の女性のリーダー層登用に向けて、女性専用の育成プログラムの充実化に取り組んでいます。

また、EY新日本は自分らしくいられる環境づくりに力を注いでいます。LGBT+ネットワークUnityと協力し、経営執行部自らが、LGBT+の人たちが能力を発揮できる職場、社会を実現させる活動を行っています。

私のさまざまな気付きは、価値観の異なる人たちと働いた米国での生活から得られたものです。私は、志のあるメンバーにはぜひ日本を飛び出して、海外で経験を積んで欲しいです。海外研修や駐在プログラムはEY新日本の魅力の一つです。ぜひ若いうちに世界中の多くの人と出会い、EYの多様な人材の素晴らしさを感じてください。EY新日本は、一人ひとりの声に耳を傾け変革していく、風通しの良い組織です。皆さんがEY新日本の一員となる日を心待ちにしています。

## 外部機関からの認定・表彰

EY新日本のD&I推進活動は、優れた先進事例として、さまざまな外部機関から認定・評価されています。



2016年6月、厚生労働省より子育てサポート企業として、2回目の「くるみん」認定を受けました。



D&Iを推進している先進企業を表彰する「2018 J-Winダイバーシティ・アワード」において、監査業界で初めて「ベーシックアチーブメント準大賞」を受賞しました。



2019年10月、任意団体work with Prideが策定したLGBT+の取組み評価指標「PRIDE指標」において、EY Japanは3年連続して最高評価「ゴールド」と認定されました。

## 一人ひとりの「違い」を活かす職場づくり

一人ひとりの「違い」を活かすためには何が必要か — EYは、自分らしくいられる職場だと考えています。

EY新日本は幅広い切り口でD&I活動を行い、メンバーの一人ひとりが尊重されていると感じ、多様性を日々の業務に活かし最大限の能力を発揮できる職場づくりに力を注いでいます。



## パパとママのためのキャリアフォーラムを開催

子育てにおけるパパとママのパートナーシップの大切さ、相手のキャリアを思いやる気持ち、そして育児家事の効率化について考えるセミナーです。講師を招きEY Japan構成メンバーとその配偶者を対象に毎年開催。先輩パパ・ママの経験談も好評です。



## 日本最大のLGBT+イベントのパレードに参加

EY Japanは毎年LGBT+啓発イベント「東京レインボープライド」に協賛しています。2019年は、経営トップ層をはじめとする約150人のEY Japanのプロフェッショナル、その家族、友人が渋谷の街をパレードしました。



## 育児世代の活躍をサポートするEY託児

子育て中のメンバーからの提案が形になった「EY託児」は、繁忙期の祝日出勤日にメンバーの子供をオフィスで預かり、育児世代のメンバーの活躍とキャリアを全面的にバックアップする施策の一つです。



## 東京ミッドタウン日比谷の新オフィス

EY Japanは最高の職場環境をメンバーに提供することにコミットしています。2018年の東京本部オフィス移転を契機に、最新のテクノロジーを駆使して、フレキシビリティを高め、最大限のパフォーマンスを発揮できる職場環境を整備しました。



## 女性同士が知り合い高め合う場「WindS」

女性のネットワークWindSは、女性が働きやすい環境で生き生きと活躍できる場を提供していくことを目指して、2008年1月より活動しています。女性同士が助け合い、さまざまな取組みを行っています。



## 障がいへの理解を深める手話講習会

年数回、手話のできる有志のEYメンバーが手話講習会を実施するなど、障がい者の働きやすい職場づくりを推進しています。実はEYの創業者の一人、アーサー・ヤングも聴覚障がい者。12月3日の国際障がい者デーには、世界中のEYオフィスでキャンペーンを実施します。

## 育児支援制度の概要 (2020年10月～)

|            | 妊娠中                                                                                                                                                  | 出産前後                                                            | 子育て期                                                                                                                                                                                                                                    |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 休業等を取得する場合 |                                                                                                                                                      | 産前休業*<br>産後休業*<br>配偶者出産休暇(男性)<br>休職中のe-Learning環境整備(キャリア継続サポート) | ※女性のみ利用可能な制度。<br>その他の制度は男性も利用可能です。<br>育児休業(最長2歳まで)<br>復職セミナー                                                                                                                                                                            |
| 仕事と両立する場合  | 有給休暇(最大年25日付与・有給)<br>健康診査等時間の確保*<br>時差通勤の実施*<br>時短勤務の措置*<br>休日勤務の制限*<br>時間外勤務・深夜勤務の制限*<br>看護休暇(年5日まで有給)(随時)<br>在宅勤務(随時)<br>選択型シフト勤務(随時)<br>中抜け勤務(随時) | 法定の労働禁止期間(本人請求により産後6週間での復帰可)                                    | 有給休暇(最大年25日付与・有給)<br>育児時間*(1歳まで)<br>子の看護のための休暇(小学校就学前まで・有給)<br>時間外勤務・休日出勤の免除(小学校卒業まで)<br>短時間勤務(小学校卒業まで)<br>所定勤務日数の低減(小学校卒業まで)<br>ベビーシッター利用補助(病児保育含む、小学校卒業まで)<br>看護休暇(年5日まで有給)(随時)<br>EY託児(繁忙期)<br>在宅勤務(随時)<br>選択型シフト勤務(随時)<br>中抜け勤務(随時) |
| 共通         | 育児コンシェルジュ(育児相談、休業前面談、復職后面談、保活支援など)                                                                                                                   |                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                         |

短時間勤務と所定勤務日数の低減は組み合わせ利用が一部可能。

上記のほか、育児・介護・配偶者の転勤などの事情により退職した人を再雇用するジョブ・リターン制度、介護休業や介護の短時間勤務等の措置などの制度もあります。



Recruitment Information

募集要項

|                                              |                                                                                                                                    |
|----------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 対 象 者                                        | 2020 年度公認会計士試験論文式試験 全科目合格者 および過年度合格者                                                                                               |
| 給 与                                          | 当法人の給与規程による<br>賞与：6 月、12 月 年 2 回支給<br>昇給：年 1 回 10 月<br>手当：時間外手当、休日出勤手当、通勤手当（全額支給）、出張手当等                                            |
| 退職金制度                                        | 当法人の退職金規程による支給                                                                                                                     |
| 勤 務 時 間                                      | 9：30～17：30（選択型シフト勤務制度あり 8:00～16:00、8:30～16:30、9:00～17:00、10:00～18:00）                                                              |
| 休 日・<br>休 暇 等                                | 土曜日、日曜日、国民の祝日（ただし法人が指定する祝日は除く）、年末年始、創立記念日、その他法人が認め<br>た臨時休日、有給休暇（法定以上）、慶弔休暇、配偶者出産休暇、看護休暇（年間5日）、試験休暇（実務補習<br>所修了審査等）、ボランティア休暇（年間5日） |
| 育児・介護                                        | 育児・介護に伴う休業制度およびフレキシブルワークプログラム（勤務時間の短縮等）あり                                                                                          |
| 社 会 保 険                                      | 健康保険、厚生年金保険、雇用保険、労災保険                                                                                                              |
| 福 利 厚 生<br>*2020年10月1<br>日改正後の内容<br>となっております | 【保険制度】 団体所得補償保険（補助金制度）、団体医療保険、海外旅行保険（海外出張の場合）、総合福祉団<br>体定期保険等                                                                      |
|                                              | 【DC 制度】 選択制企業型確定拠出年金                                                                                                               |
|                                              | 【クラブ活動】 野球部、サッカー部、バスケットボール部、テニス部、スキー・スノーボード部、フットサル部、剣道<br>部、ゴルフ部、ランニング部、着付部、華道部、陶芸部、茶道部、カラオケ部、トレッキング部、フランス語部、サウナ<br>&スパ部等          |
|                                              | 【ベビーシッター利用料等補助制度】 個人契約ベビーシッター派遣会社、および、その他のサービス（延長保<br>育料等）に対する補助対象の利用料の 60%補助                                                      |
|                                              | 【法人契約スポーツクラブ】 コナミスポーツ、ルネサンス                                                                                                        |
| 実 務 補 習                                      | 【メンバー制の別荘】 日本オーナーズクラブ、星野リゾート・トマム等                                                                                                  |
|                                              | 実務補習所への通学を優先しており、出張等は重ならないよう配慮し、泊り込み補習、<br>また論文提出の際も最大限の便宜を図っています。                                                                 |
| そ の 他                                        | ▶公認会計士協会登録費用、年会費等を法人で全額負担しています。<br>▶ノート型パソコンと iPhone を全員に貸与します。 ▶在宅勤務制度あり。                                                         |



Outline

法人概要

EY新日本有限責任監査法人

海外駐在：44力所 国内事務所：17力所

▶国内事務所所在地  
東京/札幌/仙台/山形/福島/新潟/富山/金沢/松本/静岡/浜松/名古屋/大阪/  
広島/高松/福岡/那覇（2020年6月30日現在）

EY新日本有限責任監査法人  
ERNST & YOUNG SHINNihon LLC（英文名称）  
本部・東京事務所：  
〒100-0006 東京都千代田区有楽町一丁目1番2号  
東京ミッドタウン日比谷 日比谷三井タワー  
Tel 03 3503 1100（代表）

▶人員構成

|                      | 社 員   | 職 員     | 合 計     |
|----------------------|-------|---------|---------|
| 公 認 会 計 士            | 527 人 | 2,445 人 | 2,972 人 |
| 公認会計士試験<br>合 格 者 な ど | —     | 1,160 人 | 1,160 人 |
| そ の 他                | 10 人  | 1,412 人 | 1,422 人 |
| 合 計                  | 537 人 | 5,017 人 | 5,554 人 |

（2020年6月30日現在）

合計 5,554 人

▶被監査会社数

|               |        |
|---------------|--------|
| 金商法・会社法監査     | 940社   |
| 金 商 法 監 査     | 56社    |
| 会 社 法 監 査     | 1,292社 |
| 学 校 法 人 監 査   | 87社    |
| 労 働 組 合 監 査   | 8社     |
| そ の 他 法 定 監 査 | 619社   |
| そ の 他 任 意 監 査 | 707社   |

合計 3,709 社

（2020年6月30日現在）

▶資本金

1,040 百万円（2020年6月30日現在）

▶設立

2000 年 4 月 1 日

▶EY新日本有限責任監査法人グループ  
（2020年6月30日現在）

新日本パブリック・アフェアーズ株式会社  
EYソリューションズ株式会社  
EYフォレンジック・アンド・インテグリティ合同会社  
EY Japan株式会社



## EYについて

EYは、アシュアランス、税務、トランザクションおよびアドバイザリーなどの分野における世界的なリーダーです。私たちの深い洞察と高品質なサービスは、世界中の資本市場や経済活動に信頼をもたらします。私たちはさまざまなステークホルダーの期待に応えるチームを率いるリーダーを生み出していきます。そうすることで、構成員、クライアント、そして地域社会のために、より良い社会の構築に貢献します。

EYとは、アーンスト・アンド・ヤング・グローバル・リミテッドのグローバルネットワークであり、単体、もしくは複数のメンバーファームを指し、各メンバーファームは法的に独立した組織です。アーンスト・アンド・ヤング・グローバル・リミテッドは、英国の保証有限責任会社であり、顧客サービスは提供していません。EYによる個人情報の取得・利用の方法や、データ保護に関する法令により個人情報の主体が有する権利については、[ey.com/privacy](https://ey.com/privacy)をご確認ください。EYについて詳しくは、[ey.com](https://ey.com)をご覧ください。

## EY新日本有限責任監査法人について

EY新日本有限責任監査法人は、EYの日本におけるメンバーファームであり、監査および保証業務を中心に、アドバイザリーサービスなどを提供しています。詳しくは、[www.shinnihon.or.jp](https://www.shinnihon.or.jp) をご覧ください。

© 2020 Ernst & Young ShinNihon LLC.  
All Rights Reserved.

ED None

本書は一般的な参考情報の提供のみを目的に作成されており、会計、税務およびその他の専門的なアドバイスを行うものではありません。EY新日本有限責任監査法人および他のEYメンバーファームは、皆様が本書を利用したことにより被ったいかなる損害についても、一切の責任を負いません。具体的なアドバイスが必要な場合は、個別に専門家にご相談ください。